

# 【復刻版】沖繩文化 全8巻

発行—沖繩文化協会

体裁—B5判(第1巻)・A5判・上製・総約4、600頁

解説—波照間永吉

(沖繩文化協会会長・沖縄県立芸術大学附属研究所教授)

※第1巻巻頭に収録

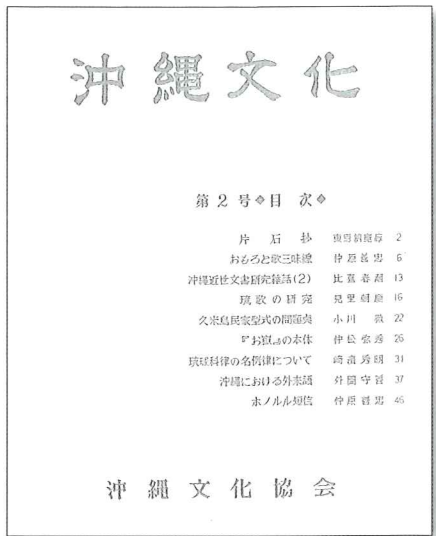
推薦—我部政男・仲程昌徳

定価—本体150、000円+税

刊行—2014年8月・11月

●配本概要

配本		復刻版	原本の巻号	原本の刊行年月
第1回配本		第1巻	第1号～第12号	1961年4月～1963年9月
第2巻		第2巻	第13号～第22号	1963年10月～1966年12月
第3巻		第3巻	第23号～第32号	1967年3月～1970年11月
第4巻		第4巻	第33・34号～第39号	1971年1月～1972年6月
第5巻		第5巻	第40号～第44号	1973年7月～1975年11月
第6巻		第6巻	第45号～第49号	1976年8月～1978年4月
第7巻		第7巻	第50号～第55号	1978年8月～1981年5月
第8巻		第8巻	第56号～第60号	1981年10月～1983年3月
第2回配本				
				2014年11月刊行 本体75、000円+税 ISBN978-4-8350-7684-3
				2014年8月刊行 本体75、000円+税 ISBN978-4-8350-7679-9



表示価格は、全て税別

不二出版

〒113-0033 東京都文京区向丘 1-11-22  
TEL 03-3822-4433  
FAX 03-3822-4464  
振替 001601194084

●復刻の辞

『沖繩文化』は、一九四七年八月に創設された沖繩文化協会の機関誌である。当誌は第二七号で休刊となったが、一九六一年に復刊し、現在に至っている。

沖繩文化協会は、沖繩の文化を研究紹介し、その進展に寄与することを目的とし、広く沖繩研究者及び沖繩に関心を持つ人々を会員として運営されている会である。当協会は今日まで沖繩研究の柱として活動を進め、『沖繩文化』を通して沖繩研究の優れた成果を紹介し、多くの貴重な研究論文を収録してきた。それは「おもろろさうし」研究をはじめ、め言語学、歴史学、人類学、考古学、宗教学、文学、芸術学と多岐に渡る。

弊社は沖繩文化協会のご協力のもと、復刊第一号(一九六一年四月)から第六〇号(一九八三年三月)までを復刻し、研究者及び研究機関に沖繩研究の基礎資料として供するものである。

不二出版

沖繩文化協会 機関誌

【復刻版】

# 沖繩文化

全8巻

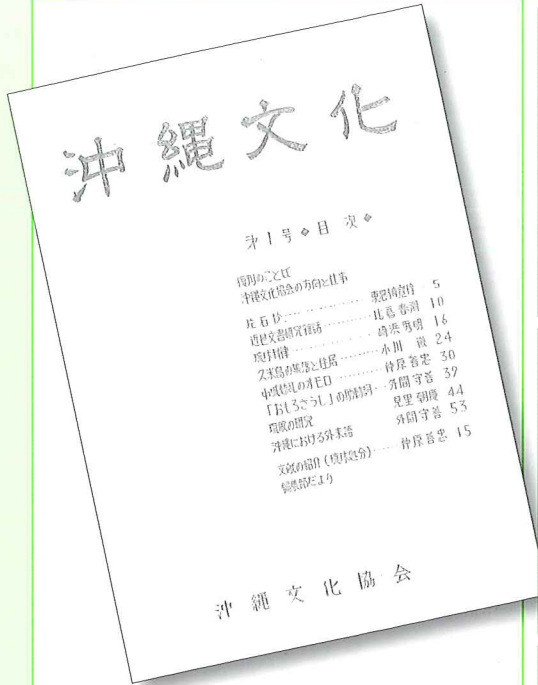
●体裁—B5判(第1巻)・A5判・上製・総約4、600頁

●解説—波照間永吉(沖繩文化協会会長・沖縄県立芸術大学附属研究所教授)

●推薦—我部政男・仲程昌徳

●定価—本体150、000円+税

●刊行—2014年8月・11月(全2回配本)



### 自己照射の発散

我部政男 (山梨学院大学名誉教授)

復刊の『沖繩文化』が、装丁のお色なおしをして、波照間永吉さんの詳細な解説を付して、沖繩の基本資料を数多く出版してきた不二出版から復刊されるといふ。沖繩研究に関心を持つ者にとって、大きな喜びである。これまで学習・研究会を組織し、推進してこられた今は亡き比嘉春潮、外間守善の両先生もかすかに笑顔をみせるかと思う。研究論文をまとめ、編集に情熱を傾けた関係者の喜びも胸に迫るものがある。

雑誌『沖繩文化』は、沖繩人のこころのあり方を求めて沖繩研究に没頭した研究者群像の航跡に他ならない。この郷土的な精神文化は、郷里を離れることで強められ、理解を求める知識欲を増幅させてきた。まさに、沖繩版の悔恨共同体であろうか。在京の有志で組織された研究会も着実に成果を積み重ねてきた。その間に、若い研究者の参入も見られる。文化協会でも業績を積んだ若い世代が、今やいくつかの大学に分散し、自己の専門とは別に、琉球・沖繩研究という科目を設けるまでの学者として成長している。琉球、沖繩史、琉球文学等の科目は、国際日本学の基底分子として発展しながら同時に進む。この充実した劇的な変貌をなんと見るか。

本来、伊波普猷の沖繩学は、おもろの研究が主流であった。徐々に研究者の層も増える。歴史、民俗・民族、社会学等の専門家の参加も得て、対象の沖繩地域の変化はないものの、分野は格段に広がった。省みるに、百科全書的な分野の拡大と沖繩地域への視点の集中、統合化が同時に進行する総合的な学術分野である。琉球・沖繩の歴史的な体験を周辺地域の交流の観点で見れば、日本はもちろん、中国、朝鮮、東南アジア、アメリカ地域へと太平洋の周辺地域に広がる。移民、殖民の動きを取り入れるとさらに拡大する。思えば、東アジアの地域研究としても、多くの共同研究者の動員も可能となり、限りなく未知の分野に属する肥沃な荒野を持つであろう。

沖繩の自己認識として出発する学問は、単に事実究明や解明のための学の範囲を超えて、沖繩の閉塞的な社会の打破潮流と結びつき、アイデンティティを求めて彷徨する。琉球沖繩学に秘められたもう一つの顔であろうか。この課題と時代の重圧と苦痛が、不思議で新鮮な魅力を伴って、研究意欲を刺激し、引き付けてやまない。

これから先の沖繩未来は、どこに向いて歩むのか。多くの人が知りたい課題だ。ただし、答える人は、今は見えないのも厳粛な事実である。しかし、行く手にたいまつは灯されている。薄い光であれ、沖繩文化の灯す光こそが、頼りだ。微力とはいえ、その伝統に謙虚に向き合う時、共に考えるべきこたえの輪郭が見え始めるであろう。伝統文化の精神は、求める方に微笑であろうか。

### 第二期「沖繩文化」の結集

仲程昌徳 (法政大学沖繩文化研究所客員所員)

『沖繩文化』が創刊されたのは一九四八年二月一日。創刊号に原稿を寄せたのは仲原善忠、宮良当壮、比嘉春潮、金城朝水。伊波普猷亡きあと沖繩研究の第一歩を印した雑誌は、その後、島袋源七、島袋盛敏、奥里将建、東恩納寛惇といった錚々たる研究者たちを迎え、その基盤を築いていく。『沖繩文化』は、第八号から誌名を『文化沖繩』に改題、一九五三年第五巻第一号通巻二七号をもって休刊し、一九六一年誌名を『沖繩文化』にもどし復刊する。

『沖繩文化』『文化沖繩』の時代を第一期といい、復刊第一号から一九八七年『沖繩文化』編集所を沖繩に移すまでの間を第二期とするが、今回復刊されるのは、復刊第一号から一九八三年三月刊行された第六〇号まで。

『沖繩文化』第一期の論者は、一九七〇年『沖繩文化叢論』として纏められている。『沖繩文化』は、同書の刊行前後から、新しい世代が登場し実質的な形で第二期を迎えていく。復刊第一号から編集実務を担当した外間守善は、第五一号「協会創設三十周年記念号」で「若き獅子達」という言葉を用い、『沖繩文化』に登場してきた若い世代の研究を祝福していた。

第二期の特色は、論者の多くが琉球大学で学んだ者たちであったこと、東京在住者中心の研究から、沖繩在住者中心の研究へと移行し、研究の領域が一段と広がっていったことなどあるが、第一番に上げられるべきは、沖繩研究が生き生きと動き出していく様が見られることであろう。

### 沖繩文化協会の方向と仕事

本紙創刊号に、われわれは協会の方向及び仕事を論じておいた。

十二年後の今日になって、その歩みと改善し、さらに内外の条件の変化も考慮し、将来の方向と仕事の計画を定めておきたい。

沖縄現地において、琉球博物館、琉球大学、文化保護委員会、琉球史料研究会(雑誌、琉球)が発足し、それらの分野において活動しつつある。博物館の文化財蒐集、琉大の方きクラスの方き研究は注目し得るものあり、琉大図書館も集書につとめ、その成積も見るべきものがある。

文化財保護委員会、琉大史跡の保存、埋没物の復元につとめ、文化財年鑑を発行しつつある。

史料研究会は史料の復刊と月刊「琉球」を発行し、今中止しているようだ。

文化財保護委員会の発起報告その他の記録には見るべきものがあるが、歴史に関するものは、琉球の専門家のみならず、一般の識者も関心がある。その出版策は、資料の整理、調査、刊行に努めたい。

文藝部(琉球政治)の琉球史料(年刊)は、いよいよ創刊号の出版が近づいているが、現政府の施政の記録で、前代に比して著述が豊富で、現代史と見られる。

「反政府の志士たち」(一般社説)の動きと統合して現代史が構成される条件のもとに与えるなら、重要な史料であろう。

沖縄現地の活動が前記のようで十年前の学問的荒蕪地では無い。

わたくしは、匿名文藝の複製、仲志木の復写その他において、琉大の方々と互助的に提携しつつ、所蔵、複製も琉大の仲原辰、仲原西氏の個人的努力を得ることになっていく。いずれ、琉大の方々が中心になるのが望ましいであろうと思う。

水工の調査、特に港田氏、民路宮の方々の調査も結果は大きかったと思う。

厚生を小くも調査団は、資料の整理、調査、刊行に努めたい。

大さくは、調査、刊行に努めたい。

### 復刊のことば

「文化沖繩」は、しばらく休刊していましたが、復刊の希望に答えて再出版したいと思っております。

「沖繩文化協会」の会報として創刊号を出したのが、昭和廿三年十月一日でした。

サブタイトル「四巻」で十六号まで、比嘉春潮さんが、編集と発行切り、奥さんが印刷、送金、金成朝水君が原稿集め、私が資金調達係という組織(？)でした。

七号から雑誌に改題(十二号)八号から「文化沖繩」と改題、オマセ七号(廿八年二月号)で終わっています。

小さなガリ版雑誌であるに拘らず、各方面から好意をもたれ、その趣意を惜しまれず、再刊をすすめる方々もあり、現に古水屋で打ち合わせの段階で取りかかっています。

東恩納さんの画録(一〜一八回)金成君の琉球に取材した文字(一〜一三回)比嘉君の琉球文藝雑誌(一〜二二回)等、これだけの降紙を喜びました。

私も二巻から、あんな好評は、一〜二二八

回からおもしろ研究と改題)を連載、四五回までつづけて、主として調査のあるおもしろの研究を志し、美者から集められることか少くもなりました。

その頃、島袋源七、島袋盛敏、奥里将建、東恩納朝水、金城朝水の三君が、東京、大阪、京都まで遊学された、過労の危険信号とわれわれが感じたのも無理のないことと考えます。

文化沖繩も休刊になったのでした。

定かた八年の休刊になりました。その間に若い研究者も成長しました。復刊の機運ももたらがって来りましたので、敢て、改題も改題しました。結局、沖繩文化協会を母胎とし、文化沖繩の発刊、その方向を定む、という経緯に立ちました。沖繩を対象とする研究の発展、連絡、紹介の機関とし、お互いの学的交流に努めることをねらい、と思っております。

研究者の方々にたいし、寄稿をお願いいたしますが、記述はかんけつに、成る可く編者の方々にたいし、第五号の復刊の便宜を司かるようにしたいと思っております。

誌名は、もとに「沖繩文化」と改題します。復刊の御慶に、今年、五月、六月、七月、希望をこめて発定します(一九八二年一月)

# 沖繩文化

第 17 号

仲原善忠先生追悼特集号

沖繩文化協会

昭和40年4月25日発行(1年4回発行)第4巻第17号

# 沖繩文化

第八卷二・三号 昭和46年1月

33・34

奄美特集号

奄美研究の動向—回顧と展望—	山下 欣一 (1)
奄美方言の語源について	金 久 正 (12)
奄美の年中行事	田 加 英 助 (21)
奄美の子供ユングト	志 原 義 盛 (35)
奄美の古文書	山 田 尚 二 (52)
奄美民謡概観	久 保 けん 夫 (69)
奄美・沖縄における ヨシナ系ハヤシ詞の歌謡	小 川 学 夫 (79)
喜界島の民俗	三 井 喜 貞 (95)
徳之島の民間伝承—伝説・昔話彙書—	東 喜 望 (108)
沖永良部島の神話	先 田 光 演 (122)
与論島の民俗と生活	栗 喜 久 元 (132)
学界ニュース	(121)
研究会日誌	(147)

沖繩文化協会  
那覇・東京

# 沖繩文化

第十八巻一—号 56 昭和56年10月20日

比嘉春潮先生追悼特集号

沖繩文化協会

昭和五十四年度「沖繩文化協会賞」発表  
昭和五十四年度「沖繩文化協会賞」は、候補者三十六名の中から最優秀の結果、次の三人の受賞者が決定しました。  
△比嘉春潮賞 多和田 さち子氏  
△仲原善忠賞 玉 城 政 美氏  
△金城朝永賞 内 開 直 仁氏

論文「龍と組踊との比較試論」『沖繩文化』48・49号  
論文「奄美と琉球の比較試論」『沖繩文化』48・49号  
論文「奄美と琉球の比較試論」『沖繩文化』48・49号  
論文「奄美と琉球の比較試論」『沖繩文化』48・49号

「沖繩文化協会賞」規定  
第一条 伊波普猷先生および比嘉春潮、仲原善忠、金城朝永三先生による沖繩学の精神を受け継ぎ発展させるため、若い人達の有望な研究を助成することを目的とし、

沖繩文化協会に「沖繩文化協会賞」を設ける。  
第二条 「沖繩文化協会賞」は研究論文の内容によって「比嘉春潮賞」、「仲原善忠賞」、「金城朝永賞」とし、それぞれ、賞状、賞牌、および副賞(十万円)を贈るものとする。  
第三条 「沖繩文化協会賞」は年度ごとに毎年十一月初旬に決定し、沖繩文化協会総会の席上において授与する。  
第四条 選考対象の論文は、原則として沖繩文化協会機関誌「沖繩文化」に掲載されたものとする。  
第五条 「沖繩文化協会賞」は、沖繩文化協会に設けた「沖繩文化協会賞」選考委員会が審査し決定する。  
第六条 選考委員会は、沖繩文化協会運営委員会が委員若くは名をもちて構成し、委員長は委員の互選によって決定する。  
第七条 「沖繩文化協会賞」の基金の運用は、沖繩文化協会の運営委員会が管理し、毎年度の総会で会計報告を行なう。

「沖繩文化協会賞」選考委員会の組織  
選考委員長 服部 二郎 東京大学名誉教授 言語学  
選考委員 小川 徹 駒沢大学教授 民俗学  
選考委員 外間 守善 法政大学教授 国文学  
選考委員 矢野 輝雄 NHK法規室室長 芸能史学  
選考委員 中本 正智 東京都立大学助教授 国語学

# 沖繩文化

36・37 昭和46年8月25日

八重山特集号(十周年記念誌)

八重山研究史	宮 良 高 弘 (1)
一人とその業績— 八重山・黒島の創世神話と黒島諸御祖の由来—	喜 富 場 永 均 (17)
根来神「まゆみがなしい」について	宮 良 貞 貞 (26)
八重山と上木税	牧 野 清 (45)
八重山地方に流布する念仏歌について	加 治 工 真 市 (58)
石垣島・川平諸御祖の由来と 群星御歌の神口	宮 良 安 彦 (79)
八重山・白保方言の研究	石 垣 繁 (88)
—その音韻・アクセントについて— 八重山竹富島の韻算	又 吉 孝 一 (97)
「左右(さう)考」	新 城 安 善 男 (103)
書評 窪徳忠著「沖繩の習俗と信仰」	新 城 安 善 男 (108)
「沖繩文化」誌発行の思い出 —十周年にあたり—	外 間 守 善 (113)
学会ニュース	(112)
刊行ニュース	(16)

沖繩文化協会  
那覇・東京

## 近代沖繩新聞集成

DVD版 全12枚・別冊5

沖繩戦は、県内で発行されていた史・資料のほとんどすべてを焼きつた。本集成は、戦前に沖繩で発行され、半世紀に及ぶ調査によって県内外から掘り起こされた新聞を、沖繩・日本近代史の資料として提供する。

【内容】琉球新報(一八九八〜一九一八年、一九三三〜一九四〇年)、沖繩毎日新聞(一九〇九〜一九一四年)、沖繩日報(一九三三〜一九四〇年)、沖繩新聞、沖繩朝日新聞、沖繩タイムズ、沖繩新報、その他

編集 集Ⅰ「近代沖繩新聞集成DVD版」刊行委員会(新崎盛暉ほか)  
別冊Ⅰ収録新聞発行年月日・号数一覧  
検索システムインストールCD全4枚付き  
推 薦Ⅰ有山輝雄・仲程昌徳・三木 健・宮城晴美  
推 薦Ⅱ山本570、000円十税

## 琉球新報 全27巻

琉球新報社刊(一九五二年九月〜一九五六年二月刊)

本紙は、日本の無条件降伏の前月、一九四五年七月二六日に創刊された『琉球新報』の継続改題紙である。戦後、アメリカ支配下に琉球政府を充足させた沖繩における最初の地元新聞であり、当時の沖繩県民の姿を映す貴重な資料である。弊社では、一九五一年九月一〇日(八六七号)から「奄美大島日本復帰」に至る一九五三年二月三十一日(二六八八号)までを第一期、一九五五年六月までを第二期、一九五六年一月までを第三期として復刻し、戦後復興期の日本及び沖繩を知るための資料として提供する。

解説(新崎盛暉) 付き  
B4判・上製・総9、548頁  
推 薦Ⅰ我部政男・門奈直樹  
推 薦Ⅱ山本756、000円十税

## 沖繩新民報・自由沖繩 全2巻

「沖繩新民報」は、一九四六年一月、九州各地に疎開していた沖繩出身者のための情報紙として、親泊政博によって福岡で創刊。「自由沖繩」は、一九四五年二月、沖繩人連盟の機関紙として、比嘉春潮を中心として、東京で創刊された。両紙は、沖繩が米軍占領下にあり、沖繩出身者の社会と完全に分離されている状況にあって、九州への疎開者や外地からの引揚者と結ぶ唯一のパイプであった。戦後日本の沖繩人社会を知る資料として、あるいは占領下の日本を見なおす資料として復刻する。

解説(新崎盛暉) 付き  
B4判・上製・総642頁  
推 薦Ⅰ我部政男  
推 薦Ⅱ山本48、000円十税

## 占領期・琉球諸島新聞集成 全16巻

奄美・沖繩・宮古・八重山の四諸島は、戦後初期の約八年間、琉球諸島として共に米軍政下に置かれ、米軍はこれらの諸島を四群島別に統治していた。したがってこれらの地域は、この時期、社会的事情において地域差があり、政治的文化的諸活動において独自の歩みをしてきた。こうした地域独自性を知る貴重な手がかりが、それぞれの地域で発行されていた新聞である。沖繩現代史を解明するために「宮古民友新聞」「みやこ新聞」「南西新報」「海南時報」「奄美タイムズ」の五紙を復刻刊行する。

監修(新崎盛暉)  
解説(仲宗根将二・大田静男・弓削政巳) 付き  
A4判・上製・総6、140頁  
推 薦Ⅰ山本448、000円十税

## 沖繩教育 全38巻・別冊1

戦前沖繩における教育を論じた『沖繩教育』は、一九〇六年三月、「琉球教育」の後継誌として刊行された。沖繩における「大和化」政策など、近代沖繩における教育と文化の史実を解き明かす上で最も重要な資料である。これはもちろん、広く沖繩近代史の基礎的資料でもある。本誌は、散在が著しい状態であったが、現存する原本をつぶさに調査し、全冊のうちおよそ半数強を発掘、復刻するにまつたものである。姉妹誌である『島尻教育』と『八重山教育』の二冊はかも付録として収録。

編集 集Ⅰ「沖繩教育」復刻刊行委員会  
別冊Ⅰ解説(藤澤健一・近藤健一郎・梶村光郎・三島わかな)・総目次・索引  
B4判・A5判・上製・総13、726頁  
推 薦Ⅰ逸見勝亮・三木 健・屋嘉比取  
推 薦Ⅱ山本555、000円十税

## 琉球大学文芸部(琉球文藝クラブ) 発行(一九五三年〜一九七八年刊)

『琉球文芸』は幾度にもわたる休刊・停刊を挟み、第三四号まで刊行された。多くの同人がペンネームを使用していたが、それは米軍の強い取締りの中で名前を秘すことが必要なた時代であったからである。一九五六年の「島ぐるみ闘争」では同人が参加し、数度の回収や休刊、停刊処分を受け、除籍処分を受けた者も出た。そうした困難を乗り越えて、同人たちは雑誌を再刊させ、朝鮮戦争からベトナム戦争に向かう米軍や高度経済成長に突き進む日本「本土」との間で「復帰」に向かう時代状況と切り結びながら文学表現を試みてきた。「前衛地帯」「沖繩文学」「サチュリコン」(一巻2号)「原点」とともに復刻。

別冊Ⅰ解説(我部 聖)・総目次・索引  
A5判・上製・総2、532頁  
付 録Ⅰ「前衛地帯」「沖繩文学」「サチュリコン」(一巻2号)「原点」  
推 薦Ⅰ小森陽一・新城郁夫・仲程昌徳・目取真俊  
推 薦Ⅱ山本96、000円十税

## 戦後初期沖繩解放運動資料集

DVD版 全1枚・別冊1

軍政下の弾圧を逃れ秘密裡に進められた「島ぐるみ闘争」の準備活動を、当時の合法・非合法の運動資料、関係者のインタビュー記録、官憲側の監視資料、関連記事・論文などにより総合的に明らかにした、画期的な歴史資料集。

編集・解説Ⅰ加藤哲郎・森宣雄 島山淳・国場幸太郎  
別冊Ⅰ「島ぐるみ闘争」はどの準備されたか―沖繩が目指す(あま世)への道― 森宣雄・島山淳 編著  
推 薦Ⅰ新崎盛暉・富山一郎  
推 薦Ⅱ山本30、000円十税

## 琉球政府 発行(一九五四年版〜一九七一年版)

琉球政府 発行(一九五四年版〜一九七一年版)  
琉球要覧 全14巻  
B5判・A5判・上製・総約6、500頁  
推 薦Ⅰ原洋之介  
推 薦Ⅱ山本272、000円十税(各巻分売可)

## 琉球統計年鑑 全14巻

琉球政府 発行(一九五五年版〜一九七二年版)  
琉球統計年鑑 全14巻  
B5判・上製・総約6、800頁  
推 薦Ⅰ原洋之介  
推 薦Ⅱ山本294、000円十税(各巻分売可)

## 今日の琉球 全12巻・別冊1

琉球列島米国民政府 発行(一九五七年〜一九七〇年刊)  
今日の琉球 全12巻・別冊1  
巻頭解説(大城立裕) 付き  
別冊Ⅰ解説(鳥山 淳)・総目次・索引  
B5判・上製・総6、236頁  
推 薦Ⅰ新崎盛暉・吉見俊哉  
推 薦Ⅱ山本300、000円十税

## 守礼の光 DVD版 全5枚・別冊1

琉球諸島米国民政府高等弁務官事務所 発行(一九五九年〜一九七二年刊)  
守礼の光 DVD版 全5枚・別冊1  
別冊Ⅰ解説(仲程昌徳)・総目次・索引  
推 薦Ⅰ大田昌秀・我部政男  
推 薦Ⅱ山本175、000円十税